

学校を知ろう ～ 学校に行こう ～

子どもがよりよい学校生活を送れるよう、保護者は積極的に子どもの学校での様子や学校のことを知るよう心がけることが大切です。

授業参観日や学校公開日に、子どもの学習や生活の様子を見てみましょう。少し早めに行って休み時間の様子を見るのもよい方法です。また、学習等の学校へのお手伝いに参加すると、子どもの様子を知るだけでなく、学校を知ることにもつながります。PTA、子ども会育成会等への参加も、地域や学校を知るよい機会となるでしょう。

子どものことで心配があったり、教育活動に疑問があったりしたら、まず担任の先生に相談しましょう。内容によっては、心のふれあい相談員、養護教諭（保健室の先生）、教頭、校長などにも相談してみましょう。

我が子の健やかな成長を願い、学校をより知るためには、様々な機会を利用して学校に行き、信頼関係を深めることが重要です。そのためのよい機会の一つが「家庭教育学級」です。（ご案内参照）

学校にもあります「相談室」

子どもたちは、友人関係で困った時、誰にも相談できずに悩んでいることがあります。また、登校を渋る子どもの中には、教室には入れなくとも他の場所なら登校できるという子どももいます。このような子どもたちが相談できる場として、各学校内に設けられたのが「相談室」です。

市では、小・中学校に「スクールカウンセラー」「心のふれあい相談員」を配置し、相談活動を実施しています。保護者の方々のご相談も受け付けていますので、大いに活用してください。

こちらでも相談を受け付けています

【市立教育センター 教育相談室】

電話相談	子どもに関わることで悩んでいる保護者向け	TEL 04-2924-3333
こども電話相談	悩みや心配ごとをもって いる児童・生徒向け	TEL 04-2924-3334

※電話相談・子ども電話相談では、匿名でも相談できます。

面接相談	市内在住の18歳未満の子ども及びその保護者
------	-----------------------

※電話（TEL 04-2924-3333）でまずご相談ください。

- | | |
|-------------------|------------|
| ○対象：市内在住の方 | ○月～金 |
| ○費用：無料 | 午前9時～午後5時 |
| ○住所：所沢市けやき台2-44-2 | ※祝日・年末年始休み |

【所沢市立生涯学習推進センター内 教育臨床研究エリア】

いじめ、非行問題行動、怠学・非行による不登校等に関わる相談

- | | |
|------------------------------|------------------|
| ○対象：市内在住の小・中学校に在籍する児童生徒及び保護者 | TEL 04-2993-2816 |
| ○費用：無料 | ○月～金 |
| ○住所：所沢市並木6-4-1 | 午前9時～午後4時 |
| | ※祝日・年末年始休み |



家庭教育学級のご案内

～今こそ家庭教育に活力を～



あなたの学び 応援します！

家庭教育学級に参加しませんか

家庭教育学級とは

家庭での教育の在り方や子育てなどの家庭教育に関する学習を自ら企画し、組織的・計画的・継続的に進める【学習の場】です。

家庭や地域の教育力の向上を支援するため、所沢市教育委員会が委託し、市内の全小・中学校区で開設されています。

※詳しくは、右の二次元コードより

所沢市教育委員会『家庭教育学級ホームページ』

をご覧ください。



学級生は

家庭教育学級には、各小・中学校の保護者と学校区の家庭教育に関心のある方は、「学級生」として参加できます。

学習計画（内容）は

学習計画は参加の学級生の希望のもとに学級ごとに作られます。学びを通して学級生同士の人間関係も深まります。

学習内容（例）

- 講演・講義 …… 子育て、人権、環境、安全（防犯・防災）、キャリア教育など〔中学校区での小中学校合同講座も行っています〕
- 心身の健康 …… 食育、思春期の心と身体、ヨガなど
- 施設等見学 …… 角川武蔵野ミュージアム、クリーンセンター、史跡など
- ものづくり …… プログラミング学習体験、ハーバリウム作り、実技・実践 クリスマスリース作り

【問い合わせ】 所沢市教育委員会

〒359-8501 所沢市並木一丁目1番地の1
教育総務部 社会教育課

TEL 04-2998-9242

FAX 04-2998-9167

令和6年1月

ちっとらっつ

～ ゆったり しっかり 家庭教育 ～



コロナ禍を乗り越え！今こそ！！

～いよいよ 学校教育のスタート～

子どもたちがうれしそうにランドセルを選んでいる姿を見ると、入学を迎えるお子さんのご家族の喜びが伝わってくるようです。子どもたちも夢をふくらませながら、入学の日を待ち望んでいることでしょう。

4月には小学校での新しい生活が始まります。子育ての新たなステージです。学校は成長の段階に応じて、計画的に学びを進める場です。また、友だちとの交流も始まり社会性を育てる場でもあります。

さて、家庭は子どもたちを健全に育成する場であり、すべての教育の出発点ということが出来ます。親子の固い絆を通して、基本的な生活習慣、生活能力、豊かな心、善悪の判断、自立心などを身に付ける上で大切な役割を担っています。

しかし、コロナ禍にあって人と人の出会う場が減少しこれまでも増して、家庭や地域での人間関係の在り方が問われています

所沢市では様々な機会をとらえて、家庭での子育ての支援を行っています。「子育ては大変だが楽しい」と言えるように学校、地域と共に手を取り合っていくことが大切です。

「ちっとらっつ」とは、所沢地方の方言で「少しずつ」という意味です。

「学び創造アクティブPLUS」

市では、子どもたちに「確かな学力」を育成することを目指して、「学び創造アクティブPLUS」を策定しました。この事業は、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちの学力向上を図ろうとするものです。

家庭における学習・読書の習慣が身に付いていたり、SNS・ゲーム等について家庭内で話し合って約束を決めていたりする児童は、学力が高い傾向にあることがわかってきました。

そのため、家庭学習の定着を図り、家族との語らいの中で、メディアとの付き合い方等の生活習慣について考えることを推奨します。

メディアとの付き合い方

メディアについてのルールを家庭で決めて取り組むことで、メディアと上手に付き合えるようにしましょう

ルールは、具体的な内容を決めよう



家族の中での役割分担

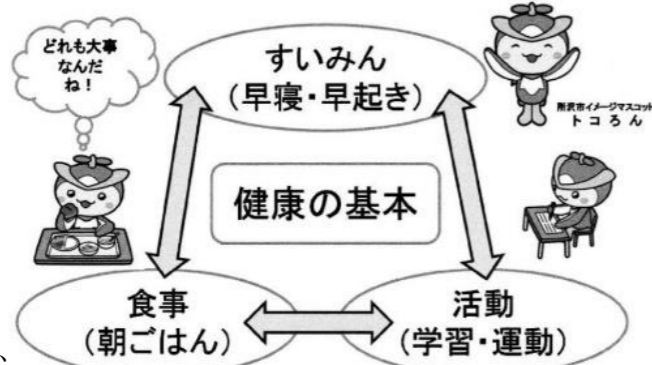
子どもたちが家庭での役割を担い、その取組を認められることで自己肯定感を高められるようにしましょう



ごみ捨て
食器運びも
いいね

早寝・早起き ・朝ごはん

早寝・早起きは、いのちのリズム！
1日のスタートは、朝ごはんから！
我が家のルールを決め、生活リズムを整えましょう



家読(うちどく)の推進

好きな本や図書館で借りた本を

毎月23日は家読(うちどく)の日



親子や家族と一緒に

毎月23日を『家読(うちどく)の日』としています。

本は、教科書や授業だけでは学ぶことのできないさまざまなことも教えてくれます。親子・家族で読書をしましょう。きっと楽しいひとときとなりますよ。

～ その子のよさや個性を大切に 可能性を伸ばす声かけ ～

子どもたちには一人一人、その子のよさや可能性があります。それは、子どもの夢や希望へとつながっていきます。

日頃、親は、どのような声かけをしているでしょうか。その子の特性に配慮しながら、結果の善し悪しだけでなく、努力の過程を認めたり、ほめたりしているでしょうか。子どもは親のほめかた一つで、親の願いを敏感に受け止め、期待に応えようと必死にがんばります。そして期待に応えられない時、子どもは不安となり自信をなくしていきます。他の子と比べたり、何でも同じようにしたりという横並びの思考は、子どものよさや可能性を閉ざし、伸び伸びと成長していくとする力を妨げてしまいます。

親は我が子の特性をよく理解し、その子にとって何が大事なのかを考え、支援していくことが大切です。

「はい」と返事 明るい家庭

あいさつ・笑顔・わらい声

- ☺ はようございます
- ☺ ありがとうございます
- ☺ つれいします
- ☺ みません



命の大切さ教えていますか ～ 自尊感情を育てる ～

子どもたちが自らの命を絶つことや他者を傷つけたり、命を奪ったりする事件が起こっています。子どもたちの命の重みに対する感受性が弱まっているようです。入学した児童に命の大切さを伝えるには、家族や社会との関係が重要です。

まず、成就感・達成感や周囲からの愛情を実感させることを通して、自分自身をかけがえのない大切な存在と思えるような「自尊感情」を育むことが基礎となります。また、自然に触れる体験活動や人との繋がりを実感できる社会体験活動、誕生・成長等の喜びや老いに触れる体験、死の悲しみを感じる体験等を通して、感性や想像力を豊かにすることも大切です。このような活動は家庭だけではできません。家庭・学校・地域がそれぞれの役割をしっかりと自覚し、手を取って進めることが大切です。

友だちを大切に ～ 子ども同士の人間関係づくりを ～

友だちを強く意識するようになるのは、小学校へ入学した頃からでしょうか。

子どもは経験を通して人間関係を学びます。いつも自分勝手では、友だちはできないとわかっています。

子ども同士の関わりの中で自分の思いどおりにならないことを学び、その体験の中でがまんすることを覚えていきます。大人との関係とは異なり、甘えが許されないので。

ある調査では、日本の子どもたちの友人関係について「いじめを注意したこと」「悪いことをしている友だちを注意したこと」などがあまりないという結果が報告されています。

人間関係は質より量の時期もあれば、量より質の時期もあります。人に対する信頼感情は子ども時代に身に付くといわれています。子ども同士の人間関係を温かく見守っていきましょう。



子どもの自立心を育てよう ～ 親自身の学び ～

子どもが自立するとはどんな姿でしょうか。幼児期から児童期という発達段階から考えると、この時期は学びの基礎力の育成時期にあり、3つの自立が重要です。それは「学びの自立」、「生活上の自立」、「精神的な自立」です。家庭生活では主に生活上と精神的な自立を促すことが大切です。「生活上の自立」とは身の回りのことができ、自らよりよい生活を創り出すことです。「精神的な自立」とは自分のよさに気づき、夢や希望を持って前向きに生活することです。これらは毎日の生活の中で身に付くことが多いようです。では、どのようにしたら身に付くのでしょうか。子どもは生まれた時から親のまねをして育ちます。親が明るく自立していれば、子どももそれを見て自立します。将来、道に迷った時に、自立した親の姿を思い出し、がんばれます。育児は育自です。